平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	1 － 11

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	雄武町統計調査員協議会補助事業					
評価者	担当課名		総務課	担当係名		情報統計係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	原　正美		氏名	河原　学
事業の概要	基幹統計（旧指定統計）等に対して協力的な姿勢で取り組みを行っている雄武町統計調査員協議会事業に対して、統計調査員の資質の向上と調査員間の密なる連携並びに各種調査等の円滑な遂行を図るため運営費の補助を行っている。					

全体計画	/単年度繰返	
（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	150 千円
	事業費計	150 千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　）
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度 B

事業の位置付け			
政策目標	5	ささえあい・雄武～協働によるまちづくりの推進	
基本施策	22	住民主体のまちづくりの推進	
単位施策	3	住民との協働体制の構築	
事務事業の種類	■	自治事務	□ 法定受託事務
その他計画・根拠等			

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	30 千円	30 千円	30 千円	30 千円	30 千円
	合計	30 千円	30 千円	30 千円	30 千円	30 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	統計調査員
【抱える課題やニーズは】	調査員としての資質低下及び連携不足による、各種調査への影響が懸念される。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	各種研修への積極的な参加等により資質の向上を図るとともに、調査員相互の連携を密にする。
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	資質の向上及び調査員間の情報交流・協力が図られ、精度の高い統計調査の推進が図られる。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

補助実績

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 補助実績 運営費補助 （総会、研修等）	目標年度	平成23年度
	目標値	30 千円
	実績値	30 千円
	達成度	100.0 %
②	目標年度	
	目標値	
	実績値	
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
雄武町統計調査員協議会運営費補助	協議会が開催する各種会議及び研修会等への参加に要する経費等、協議会運営に係わる経費について補助を行った。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	協議会の運営経費については、各種統計調査従事報酬の一部を財源としており、研修会等への参加や会議の開催には補助金が必要不可欠である。また、各種統計調査（雄武町基本調査を含む）の円滑な実施のためにも重要な事業である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	補助金収入により定期的な会議の開催及び研修会等への参加ができ、調査員間の情報交流・協力が図られ各種統計調査において訂正箇所の減少や提出期日の遵守が図られている。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	昨今の各種統計調査に係る報酬減額の中で、自発的かつ統計行政への協力的活動を行っている当該協議会への補助については、過去に実施された各種統計調査の結果等（協力体制及び実施内容）を踏まえ、非常に効果的であった。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	協議会運営のための経費については、各種統計業務に従事した調査員の報酬の一部を会費としているが、円滑な運営のためには町の補助は公平であると考える。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
基幹統計のほか雄武町基本調査の実施など、当該協議会との連携協力や調査員の資質向上は必要不可欠であり、計画どおり事業を進めることができた。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
当該協議会への補助事業は、単に会の運営補助のみならず、行政が政策を展開する上での基礎資料となる町基本調査をはじめとする各種調査の円滑な遂行につながるものであり、今後も最低限現状維持で継続する必要がある。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）